

(3) 単元の流れ

【導入の時期】生徒自身が挙げたテーマに関する滋賀県の歴史的事象について捉える。

- ・表1「各論がテーマ」に挙げた資料を根拠として、生徒自身が挙げたテーマに関し、明治～昭和初期にかけての滋賀県ではどのようなできごとがあり、どのように対処されたのか、ワークシートにまとめる。
- ・その際に、テーマに最も関係が近い資料をコピーし、ワークシートに貼ってから、本文の解説文をまとめ、自身の考察を加えさせる。

例)「鉄道線路変換の儀に付上申」(記念誌p.64)によると、滋賀県の明治時代の鉄道網の充実は、鉄道で他地域へ人や物資を運ぶことを目的としたが、それには琵琶湖水運を最大限に活用していたところが現在とは違う。

- ・生徒が一度に閲覧するため、資料として本書が数冊～クラス生徒数分程度そろっていることを前提とする。または、本書をスキャナーで読んで電子データとして生徒タブレットへ配信し閲覧させることもできる。
- ・テーマは表1に挙げたことに限定されるため、生徒のテーマに最も近いものを挙げさせる必要がある。

例)「滋賀の工業」→「産業・製糸業」

「インターネットの発達」→「災害」(気象の情報公開)

3 各市町に特化し、かつテーマも全体で統一しているもの(図1③)

(1) 単元を貫く問い

- ・彦根城は、世界文化遺産に登録できるだろうか?

(2) 育成したい資質・能力

- ・彦根城の保存活動について、明治時代の彦根の人たちが働きかけたことを本書から読み取り、他の資料と関連付けて整理・分析し、まとめ・表現する力を養う。

(3) 単元の流れ

- ・彦根市内の中学校の総合学習で、上記のような地域に根付いたテーマが本書にある場合の活用例。本書の内容について、学校所在地の話題があれば、応用を試みてほしい。
- ・膳所城は廃城となったのに、彦根城はなぜ天守閣が失われずに現在に残ったのか、資料を読んでワークシートにまとめる。国や県、井伊家に彦根城を残そうという思いがあり、維持費を工面したこと等の努力が挙がる。

- ・この後、彦根城について歴史的価値や現状、観光振興策等について調べ、まとめ考察していくが、その際に本書を元に調べた内容も根拠の一つにする。

- ・資料は、P.32～35をB4両面刷り1枚のプリントとして印刷し、配布する。

第6章 高等学校の総合的な探究の時間

滋賀県立石山高等学校 武友陽平

1 単元を貫く問い

- ・話し合いにおいて異なる考え方が出てきた際、どのように意見をまとめるか。自分たちの代表を選ぶ際、どの分野での考えを重視して投票するか。

2 育成したい資質・能力

- ・異なる立場の考えを受容し、社会にとっての最善を考える力を養う。意見がまとまらない場合の着地点を探る力を養う。候補者の考えを吟味して自らの意見を政治に反映させる主権者としての資質を養う。

3 単元の流れ

【第1次】

- ・議論をする際のルールを確認する。
- ・いくつかの問いをあげ、グループでその解決方法について話し合う。

《討論の事例》

- ①歴史的価値が高い城を改修する際にエレベータを設置して上まで行けるようにすることに賛成か反対か。
- ②市町村合併に伴い市役所を置く際、市の中央に置くか、他の市とアクセスしやすい周辺に置くか。
- ③自分たちが住む市町が周辺の市町と合併をする 것에 ついて、賛成か反対か。

*その他、第2次でとりあげる事例に近い問いを設定し、議論する。

→それぞれの選択のメリット・デメリットをあげ、そのうえで何を重視して選択するかを明確にする。

→その選択により将来の社会がどのようなかを想像する。

- ・自分の意見を理由も含めてまとめ、グループで意見交換を行う。

- ・各グループでまとめた意見を発表し、グループごとの

意見の違いを確認する。

- ・反対意見も踏まえて、自身の意見を修正・補強する。
- ・それぞれの意見の共通点・相違点を指摘し、クラスとして1つの意見にまとめるとき、どのようにまとめるかを議論する（どこかのグループが意見を撤回する、あるいは双方に妥協するなど）。

《学習教材》総務省『私たちが拓く日本の未来』

【第2次】本時

- ・前回の議論した内容を確認する。
- ・歴史的事象を学ぶ意義を確認する。
- ・過去の事件でどのような結論が下されたかを調べる。
- ・それぞれの意見とその理由、最終的決定の妥当性を考え、自分ならどうするかを考える。
- ・反対意見も踏まえ、自分の意見の修正・補強を行う。

《学習教材》『歴史公文書が語る湖国』、『私たちが拓く日本の未来』

【第3次】

- ・候補者が公約を掲げ、模擬投票を行う。

→第1次での事例をもとに、例えば下記の事例についての考えを表明し、総合して誰に投票するか考える。

A候補：(1) 賛成 (2) 中央

B候補：(1) 反対 (2) 周辺

C候補：(1) 賛成 (2) 周辺

- ・候補者の意見と自らの意見との差異をあげ、「民意」について考える。

《学習教材》『私たちが拓く日本の未来』

4 本時（2/3時間目）

主題 過去の人々がどのような決断を下したか。

《本時の目的》

- ・資料を活用し、人々がどのような意見をたたかわせ、どのような決断が下されたかを学ぶ。

【導入】前回の内容の確認

- ・どのような問題について話し合い、どのような結論が出たか。
- *自分たちがどのような思いで意見を述べたか確認させる。
- ・本時の目的の確認
- なぜ過去の事例をとりあげるのか。
- *歴史的事象を学ぶ意義を強調する。
- 現代社会は過去の人々による未来に向けての選択に

よってできたものである。

→今みんなが当たり前で暮らしている社会が当たり前でなかった。昔の人々がどのように考え、行動したかを学ぶことが今と未来を考えるヒントになる。

【展開1】過去の事例から学ぶ

- ・資料を活用し、過去の滋賀県でどのような結論が出されたかを学ぶ。

①瀬田唐橋を木製で架けるか、鉄骨で架けるか

（記念誌p.94-97）

②県庁を大津に置くか、彦根に置くか（同前p.98-101）

③坂田郡、東浅井郡の合併（同前p.102-105、写真11）

④瀬田川浚渫（同前p.106-109）

→それぞれの事例について自分の考えを明らかにし、実際にどのような意見があり、どのような調整の結果、どのような結論が出たか、調べまとめる。

*賛成・反対各意見の要点がわかるようにまとめる。

*下された決定とその要因について、わかるようにまとめる。

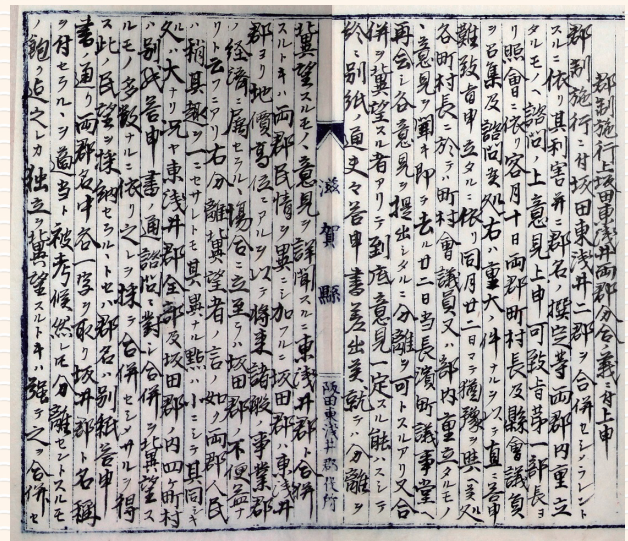


写真12 坂田・東浅井両郡分合の儀に付上申
明治23年10月【明ふ59-1（2）】記念誌p.83

【展開2】自分の意見を振り返り、反対意見も踏まえて自分の意見を補強・修正する。

*自分の考えと逆の決定であれば、自分ならどのように説得するか考える、また、自分の考えに沿う決定であれば、相手意見の問題点を指摘する。

*自分の意見の問題点についても考え、反対意見との妥協点を探り、協調する余地についても考える。

・次回の内容（模擬投票）について、手順を確認する。